

プール学院報

愛と奉仕

14th
POOLE GAKUIN
FOUNDED 1879

第91号

2021年2月・3月
発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431



勝山キャンパス 玄関ホール(クリスマス クリブ:馬小屋の人形)



2020年12月16日エレノアホール

CONTENTS

学院長挨拶	1
【特集】短大70周年及び 閉学への思い	2
【短期大学】	
秘書科	3
幼児教育保育学科	4
英文科	5
理事長挨拶	6
【中学校・高等学校】	
校長挨拶	6
教頭メッセージ	7
進学実績	8
クラブ等の成果	8
主な行事	9
卒業生紹介	9
キリスト教の メッセージ&コラム	10
同窓会だより	11
法人だより	12
編集後記	12

ご挨拶

「主イエスの光に照らされて」

学院長 磯 晴久 (日本聖公会大阪教区主教)

「わたしたちが くらやみに とどまることがない
ようにキリストは ひかりとして 世にこられた」

これはテゼ共同体の賛美の歌、祈りの歌です。私たちが暗闇に留まることがないように、主イエスは光として私たちの所に来てくださいました。およそ2000年前、世界の片すみユダヤのベツレヘムに、救い主イエスが誕生されました。そして赤ちゃんイエスという小さな灯がこの地上にもたらされました。それは最初本当に小さな灯でしたが、成人イエス、弟子たち、パウロたちによって少しずつ大きな光となって世界中に灯されて行きます。空間を超え、時空を超え、世界中に灯されて行きます。この光によって、命が守られ、育てられていきます。

この光は、福音伝道・教会・修道院の形成に留まらず、教育機関、病院、福祉施設等、いろいろな形の光となり、日本に届き、日本各地に灯されて行きます。この光がオクスラド宣教師、プール主教夫妻をはじめとする海外からの宣教師や日本人教役者を照らし、プール学院の礎が築かれ、今に至っています。残念ながら、主イエスの光に照らされて誕生した本学短大

は、2021年3月をもってその役目を終わります。今私たちは大きな岐路に立っているのだという思いを強く致します。さらに、新型コロナウイルス禍、どう生きていくのか、これからの学校の運営は、教育内容はどうなっていくのか、新しい課題も与えられています。

イタリアで新型コロナウイルス感染が拡大し、休校の続くイタリア・ミラノで、スキラーチェ校長先生がメッセージを生徒に送りました。それが本となり、日本でも出版されました。「『これから』の時代(とき)を生きる君たちへ」と言う題です。先生は、メッセージの終わりに「しかし最悪の経験からも、得られることはあるものです。この痛みはいつか、皆さんの財産になるでしょう。」と語り掛けておられます。私たちも大きな不安を抱える中、こうした言葉を私たちも心に覚え、光なる主イエスを見つめつつ、この時を乗り越えていきたいと思ひます。



短大70周年及び閉学への思い

開学70周年プール学院短期大学の
閉学にあたってのご挨拶

— 幸いなるかな悲しむ者

学長 作野 理恵



プール学院短期大学は今年度、70周年を迎えました。つまり本学は、1950年の短期大学設置基準制定時に設置認可を受けた初代短期大学です。

開学に至るまでにはM.J.オクスラード氏を初めとしたイギリス人宣教師方のキリスト教宣教、並びに女子教育への強い熱意による大変な労苦が有りました。

科学者でありながら宣教師になられたE.M.フォス先生が初代学長として学生を豊かな愛と叡知で導き、プール学院短期大学を社会的に意義深い高等教育機関へと築き上げてくださいました。代々の教職員が先哲の理念を継承し、70年間に亘り英文科、秘書科、そして幼児教育保育学科において、社会が求める優秀な人物を輩出してきました。企業や保育園・幼稚園、その他の機関・分野において、本学の卒業生は非常に高い評価を得続けています。

この様な、神の祝福によって護られ発展してきた本学が今年度をもって閉じることになり、在學生、卒業生、そして現旧教職員の皆様に対し慚愧の念に堪えません。この事態を防ぐことができなかったことに対する無念さと怒りが心中を渦巻いておりましたが、神学者高橋三郎氏の次の文章に出会ってその心境が少し変わりました。

「『悲しむ者』は『怒る者』とは違う。(略)怒る者の心には、激情があっても平和がない。(略)しかし、(略)われわれはわが身にふりかかったすべての理不尽な扱いの背後に、見えざる神の御手を感じることができはすまいか。(略)かくして(略)憤怒に燃えていた心の怒りは融けて、われわれは『悲しむ者』となる。(略)そして、この悲しみの中に、イエスの慰めが雨のようにしみ渡る。」

70年もの伝統ある名門短期大学閉学への悲しみを、本学に関わった全ての方が抱いておられることと思います。けれども「悲しむ人々は、幸いである」と聖書にあるように、悲しみ嘆く者にこそ神の愛と慰めが一層深く注がれ、その慰めが前進への勇気と希望を与えてくれると信じています。

何よりも今、その時々々に神に呼び集められ、共に本学において活動することができた不思議な導きと邂逅への感謝の思いを、皆様方と共有しております。

今後も神が皆様方一人ひとりの行く道を護られることを、そして夫々が与えられた持ち場で本学の精神を宿して他人(ひと)に仕えて歩いていくであろうことを信じて、感謝のご挨拶とさせていただきます。

プール学院短期大学
70年記念誌を編集中です

副学長・記念誌編集委員長 西尾 宜明

現在、プール学院短期大学開設70年の記念誌を作成・編集しています。2021年3月の卒業式などの写真も掲載するため、刊行は2021年の夏ごろになる予定です。

二十数年前の1999年6月2日に『プール学院短期大学部開学50年の歩み』が、刊行されています。この書には、画像資料である写真の掲載を充実させるなど、それまでの本学の歩みが詳細に紹介されています。70年記念誌における開学50年までの記載は、この書をもとにまとめています。そして、それ以降の20数年間の短期大学の歴史と展開に眼目をおいて編集することを、このたびの記念誌の中心的な方針としました。

ところで、第二次世界大戦後の日本において、高等教育機関として短期大学が果たした役割の大きさはいうまでもありません。1960年代から90年代までの短期大学は、特に女子が社会生活を営むために必要な知識や技能を学ぶための重要な位置づけがなされなければならない重要な教育機関であったことは周知のとおりです。2000年代になり、短期大学の教育は、教養主義から実学主義の様相を濃厚にしていきます。

プール学院短期大学の70年の歴史と変遷は、このような戦後日本の短期大学の歩みを象徴的に示しています。それと同時に、プール学院短期大学が戦後日本の女子教育をリードし大きな社会的貢献を果たしてきたことが、私たちの短大の歴史を振り返って確信されます。さらに、短大の教育活動に関わった教職員が不断の努力を続けてきたこともあわせて70年誌の記載から多くの学院関係者に読みとっていただきたいという思いで、編集作業を進めています。2021年3月をもって短大は終焉をむかえますが、プール学院短期大学を永遠に記録するものとして、すべての卒業生と教職員にこの記念誌をささげたいと、私は考えています。

最後に写真について記します。記念誌の内容は、学生の学びの様子やさまざまな活動、また本学の諸行事や数値的な資料など多様です。その中には、プール学院短期大学の教員たちの研究成果の紹介もあります。プール学院が主導して多くの本学教員が論文を執筆している、2000年代に刊行した研究書が3冊あります。この写真も記念誌に掲載されます。



短期大学 秘書科

短大70周年および閉学への思い

秘書科 学科長 荻野 正美

1984年4月、関西初となる「秘書科」がプール学院短期大学に設置され、2021年3月に卒業を迎える学生は31期生となります。私は四半世紀以上、秘書科の教育に携わってきました。初代、秘書科・学科長の永井千代子先生に最初にお目にかかったときのことです。永井先生からは、「秘書科という学科は日本で珍しい学科です。秘書科での学びは社会に直結していますので、親御さんからお預かりした学生は私たちが責任をもって社会へ繋がなければなりません。あなたのお考えは?」と。私は永井先生のこの言葉を常に頭に入れ、学生と向き合ってきました。

2年間という短い期間で、四年制大学と遜色のない学習環境を提供できるように、秘書科教員は一丸となって取り組んできました。秘書科独自で長年、行っているものを2つご紹介します。1999年にスタートした「卒業研究発表会」(初期の名称は「応用演習研究発表会」)です。2年次にチューターの元で指導を受け、1年間の研究成果を口頭発表します。「質問はありますか?」の司会者の一言ですらに緊張感が漂います。学会発表のような手厳しい教員からの質問に、懸命に応えようとする学生…。その姿に学生の成長を感じます。そして、もう1つは1年次対象の「秘書科プロジェクト」(初期の名称は「基礎ゼミプロジェクト」)です。2011年4月にスタートし、アクティブラーニングの先駆けともいえるも

のです。各教員が企画し、学生に貴重な経験・体験をさせる機会の確保に力を注ぎました。私が担当した「国会議員秘書から学ぶ」は、東京・永田町へ出向き、現役国会議員秘書の方々から、上司(代議士)を補佐するための実務を伺いました。多くの学生からは秘書学の理論が深められたとの声がありました。このプロジェクトは計9回実施し、約200人が参加しました。

本学は短大70周年を迎えると同時に、2021年3月末をもって閉学となります。初代学科長の言葉を受け、最後の学科長という立場で、これまでの歩みを振り返ると、多くの学生を責任をもって社会へ繋ぐことができました。皆さんは「秘書科の貴重な財産」です。社会の一員として、それぞれの役目を果たされることを期待しています。



卒業研究発表会冊子



秘書課プロジェクト(国会議員秘書から学ぶ)

2年間の学び・思い出

秘書科 2年次生 中島 瞳

プール学院短期大学は2020年度で短大70周年を迎えます。私は31期生であり、秘書科の最後の学生となります。秘書科では、2年間、社会で求められる実務の専門知識を学びました。主に来客応対や文書実務を中心に、さまざまなケースに対応できるように知識を深めてきました。秘書科で学んだことが活かされ、慶弔などで咄嗟に対応できたこともありました。

この2年間での一番の思い出は、一年次に活動した大学祭実行委員会です。私は装飾部のリーダーとして大学祭までの準備のスケジュールを組み、用意するものをまとめてきました。写真(私は左端)は当日に見回りをしていたときのものです。チームで効率よく作業を進めていくことは大変でした。しかし、皆で力を合わせて大きなイベントを成し遂げることができ、私にとって掛け替えのない経験となりました。2年次での大学祭は、新型コロナウイルス感染症



大学祭(2019年秋)

の影響で中止となりました。1年次の経験は、秘書科での2年間で一番楽しく、大切な思い出です。

卒業後、私は関西大学に編入学してさらに学びを続けます。就職活動でも社会に出てからも、秘書科で学んだこと、経験したことは私の「強み」となり、これからも役立っていくものと思います。

短期大学 幼児教育保育学科

『閉学に向けて』

幼児教育保育学科 学科長 明神 規子

プール学院短期大学にお世話になって6年目を迎え、閉学最後の一年を有意義なものにしていこうと思った矢先にコロナ禍で大学も休校になり、学生たちも戸惑いながらリモート授業に入っていました。現在の学生たちは「自分たちはプール学院短期大学最後の学生である」ことを自覚して大学に入学していますが、後輩にあたる1年次生への見本となる取り組みや地域の子どもたちとの活動がないことで戸惑いもあったようです。予定していた6月の教育実習が全面的に延期になり、学生たちの間に焦りが出始めましたが、7月中旬なりコロナ禍が少し落ち着き、徐々に対面授業を再開することができました。

8月の保育実習Ⅱ・9月の教育実習では、学生一人ひとりに実習の質向上のための自己課題を明確にさせ実習に臨んだことで、一人ひとりが手ごたえを感じ取りそのことが自信に繋がっていきました。

また大学における学びの環境のなかで、色々な困難を抱えながらも他者を援助するための専門性を身に付けようと頑張っている学生も多くいました。そんな学生たちの学びの過程をいかに共有するかが、私たち大学教員の課題でもありました。学生

が減ったことで教員数も大幅に削減されましたが、そのことで逆にチームワークが高まり“いつでも、どこでも”を合言葉に必要なに応じて学科会を開催し、学生たちに寄り添うことができました。

最後の一年を素晴らしい学生・教職員に恵まれてプールの閉学をむかえることはとても残念なことではありますが、悔いはありません。



クラス写真



体育授業(2019年)



表現指導法、学生作品

2年間の学びの思い出

幼児教育保育学科 2年次生 田村 絢奈

私は、19期生であり、幼児教育保育学科の最後の学生となります。幼児教育保育学科では、二年間、キリスト教の精神のもと、保育者に必要な高い人間力と幅広い教養を身につけるための勉強をしました。

私が今までで一番印象に残った授業は、身体表現です。身体表現の授業では、学生が指導者や子ども役になり、実際に模擬保育を行いました。

単に遊び方やルールを教えるのではなく、どうしたら子ども(学生)が安全に、楽しく元気に活動できるのかを考え、様々な工夫をするなど、いつもとは違った視点で物事を捉えました。また、グ

ループでシミュレーションをし、万全な状態で取り組んでも、思い通りにはいかないことはありましたが、グループで協力をし、成功させることで、達成感を味わうことができました。

学外では社会活動の一環として、運動教室に通う子どもたちと関わるボランティア活動を行いました。そこで、子どもが楽しく運動できるような遊びや、楽しい雰囲気になるような声かけの仕方、安全面の強化など、沢山のことを学ばせていただきました。

私は卒業後、堺市の職員として公立園で働きますが、これまで幼児教育保育学科で学んだことや、体験したことを忘れずに、日々努力を重ねて立派な保育士になれるように精進していきたいと思っています。

短期大学 英文科

God Moment 旧英文科教員 中村 真由美

2018年の夏休みも近づく7月末、Philippa Burrowsとおっしゃる英国人女性が短期大学事務室を訪ねてこられました。東南アジアにご滞在中でしたが、夏の休暇を利用して、かねがね英国のご家族から聞いておられた日本の所縁の地を見に行こうと思い立てたそうなのです。

フォス先生を初代学長としてお迎えし、開学して今年度は70周年。英文科は、1990年には専攻科(英文専攻)を加え、歩みを続けてまいりましたが、皆様ご承知の如く、国際文化学部国際文化学科、同英語学科、同教養学科と変遷を経て、愈々2018年度をもって幕を閉じようとしておりました。

ご在職中のフォス先生の訶咳に接する機会がなかった私にとって、先生方、職員の方々から伺うフォス先生のエピソードの数々は、英文科の一員として大切な道しるべであり、到頭1996年3月、15回を数えた英国学習(研修)旅行最終回の折、ウィンチェスターのご自宅にフォス先生をお訪ねできたことは、最大の喜びでございました。このとき先生は、日本聖公会大阪地方部監督であられた御父上の手記『ヒュー・ジェイムズ・フォス回想録』を下さいました。

口絵に、神戸のフォス邸“*The Firs*”のお庭で撮られた1917年当時の家族写真があります。幼いフォス先生とともに写っておられる御



姉様が、Philippa Burrows氏の御祖母様でした。Burrows氏にご覧になるや、これがあの“*The Firs*”だとお喜びくださり、この偶然のご訪問は、最後の年に起きた一際感慨深いできごととなりました。

あるクリスチャンの方が、それは偶然ではない、God momentというのだよと教えてくださいました。ふりかえりますと、これまでもGod momentと思われる瞬間が幾度も備えられていたことに気づかされ、肅然といたします。英文科に連なる私たちは、これからも訪れるであろうGod momentに、プール学院短期大学が、国を越え、時代を越えて、篤い祈りに支え導かれているのだと確かに感じることでございましょう。

(註:『ヒュー・ジェイムズ・フォス回想録』は、1995年松蔭女子学院資料として翻刻出版されたものです。)

事務室 プール学院短期大学への思い

母校のプール学院に事務職員としてのご縁を得てから早や30年が経ちました。当時はパソコンもなくIT機器も今のように発達していませんでしたので、何をやるにも手作業が頼りだったことを思い出します。体育の実習費や各種検定試験受験料は現金で徴収し、学生への諸連絡は掲示板かマイクを使用してするしかありませんでした。施設もまだ不十分でエレノアホールがなかった時代は体育館で卒業式などの行事を行いました。行事の度に職員総出の人海戦術で対応しました。フロアにシートを敷き椅子を並べ、終了すれば後片付けと大変ハードな仕事でしたが、職員も比較的若かったので乗り切れたように思います。

諸行事の中で今も深く心に残る印象的な出来事があります。卒業式後の謝恩会を外部の会場で行っていた時のことです。会の始まりを司会者が告げても声が通らないくらい学生たちはおしゃべりに夢

事務局長補佐 榎 知子



中で收拾がつかない程の騒々しさでした。しかし、チャプレンが「さあ、お祈りしましょう」と一言お声をかけられた途端、今までの喧騒が嘘であったかのように会場は一瞬にして静まり返りました。本学で日々学ぶ中で、キリスト教の教えや精神が少しずつ皆の心の中に浸透しているのだと大変感動しました。日々の祈りを通して学び続けることの大切さを実感した瞬間でもありました。

開学して70周年の節目の年、2021年3月をもって閉学することは残念で寂しいことですが、本学院が約140年間に亘って日本最古の女子教育の伝統校として高い評価を得てきたことは厳然たる事実として残ります。そしてその教育の一環を担ってきた短期大学で学べたことを非常に誇りに思っておられる多くの先輩方の本学に寄せる深い思いと、何よりプール学院で学んだことに誇りをもっておられると決意を忘れてはならないと思っています。

プール学院短期大学 後援会活動について

「後援会」は在学生の保護者によって組織されており、学生会や就職活動対策への援助、入学・卒業記念品購入、卒業感謝会の開催等、本学の教育活動に多くのご支援をいただい

て参りました。2020年度後援会総会につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、8月に集会形式ではなく総会資料の送付、紙面による回答という形で実施し、各議案についてご承認いただきました。最終年度の後援会活動については、次号にて報告させていただきます。

コロナ禍における学院の 存続する理由について

理事長 吉田 幸一

2020年3月11日、WHOが新型コロナウイルス感染症の流行をパンデミックと発表した日である。パンデミックから7ヶ月が経過し、世界の感染者数は2020年10月18日現在、約4,000万人。死亡者は110万人。国内感染者数は9,4万人で死亡者は1,687人といったおびただしい数字である。

新型コロナウイルス問題は世界中の問題であり、社会のありようを根底から見直さざる得ない状況を生み出した。教育界においても大きな変化を求められた訳である。私はレゾン・デートル *raison d'être* という言葉を想起した。フランス語の哲学用語である。「存在意義」ないしは「存在理由」を意味する。

今までは学校に通い、講義や授業を学校で受けることが当然のこととして日常的に行われていたが、新型コロナウイルスにより、それらが困難になる事態が起こった。教育のあり方が問われ、まさに学校の存在理由そのものが問われていると考えられる。神様が人類に与えた啓示ともとらえることができるだろう。私たちはこのクライシスを乗り越えなくてはならない。そのためには、叡智と勇気をもって、コロナ禍の教育活動を見直さなくてはならない。

本学院ではインターネット・システムのUniversal Passportに拠る課題学修(短大)やYouTubeによる動画配信(中高)などを行ったが、それらが有効な手立てであったことは確かである。情報通信技術(ICT)の活用の広がりも大きく伸ばすことができた。さらに今後は、学生・生徒一人ひとりが自らの学びを検証するサイクルを構築することが必要である。具体的には①講義・授業や家庭での学びによる課題の明確化 ②見直しをもって学ぶ ③自ら学びを振り返る ④次の学びへの意欲の向上を計画・実行・検証・改善による学びのPDCAサイクルを回せるような学びへの態度を醸成することを行う必要がある。

また、学生・生徒への心のケアもポイントの一つである。学生・生徒の定期的な心身の健康状態の把握に努め、さまざまな悩みやストレス等に関し、カウンセリングなどの支援や相談窓口の設置などにより、心のケア等に配慮することが必要となる。特に、修学資金が必要であるのにアルバイト先のない学生へのアドバイスや、臨時休校時に保護者が仕事を休めない中高生の居場所づくりなどにも十分配慮する必要がある。

ブール学院は、こうした工夫・改善と先端技術をも生かした教育と学生・生徒への手厚い支援体制により、コロナ禍における学院の存在意義を再認識する機会とすることで、本学院の存在理由を今一度社会に問いかける良き機会ととらえることができるのである。

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているので、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。 (ローマの信徒への手紙5章3節～4節)

You shall love your as yourself



2020年度は新型コロナウイルスの影響で、さまざまな教育活動を見直さざる得ない状況となり、生徒と保護者の皆様に心配や不安を生じさせたとしたら、この場をお借りしてお詫び申し上げます。今までの教育活動に創意工夫を加えることで、生徒の自己肯定感を高めるよう努めてまいります。このような社会情勢のなか、2つの注目すべき事柄について触れてみたいと思います。

1つ目は、アニメ映画「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の人気のすさまじい勢いであることです。大正時代の日本が舞台であり、人を食べる鬼と激しい戦いを繰り広げる「鬼滅隊」の話です。主人公の家族は鬼に殺されてしまい、妹も鬼になってしまふ。そこで主人公は厳しい修行の末に鬼滅隊に加わり、鬼と戦いを演じながらも妹を救う奮闘ぶりが、多くの観客の涙を誘っています。人生の不条理に直面した私たちはどのような行動ができるのでしょうか。この主人公のように思いの強さと努力で苦難を乗り越えることができるとしたら素晴らしいですね。聖書には「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」として、「隣人を自分のように愛しなさい」とマタイによる福音書に記されています。私たちは「隣人を自分のように愛することができるのでしょうか」。前述のアニメ映画は私たちへのメッセージとしてそのことを伝えてくれているのかもしれない。

2つ目は、私たちの身近な事柄です。①携帯・スマホの1日

neighbor

校長 吉田 幸一



当たりの平均使用時間と②定期試験に向けた学習の開始時期に関して、興味深いDATAがありましたので紹介します。①の携帯・スマホの1日当たりの平均使用時間のプール学院の生徒の最多比率は3時間以上30.6%です。全国の生徒平均は1～2時間が最多比率です。また、②の定期試験に向けた学習の開始時期に関しては、2週間以上前から開始するプール学院の生徒は36.7%に対して、全国平均は42.8%です。携帯・スマホの1日の使用時間や定期試験前の学習の準備期間に関して、プール学院の生徒には少し改善の余地が有るように思います。携帯・スマホの使用時間や学習に取り組む姿勢などに関して、今一度家庭内でも話し合いの機会をもって頂けると良いのではないのでしょうか。『脚下照顧』という言葉があります。まず、自分の足元を見て自分のことを良く省みる。身近なことに気をつけましょうという意味です。是非、毎日の生活習慣を見直してみましよう。

プール学院に連なるすべての人びとが日々の生活に感謝し、前向きに生活できるよう、生徒の育ちのために手に手を携えて連携できることを祈念します。

「わたしは、神さまの手の中の小さな鉛筆。神さまが考え、神さまが描くのです」

I am a little pencil in God's hand. It is God who thinks, and who draws.

マザー・テレサ

休校期間中の学校の取り組み ～授業動画のオンライン配信について～

高校教頭 澤村 厚司

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月から休校となり新学期は自宅学習でのスタートとなりました。先行きの見えない中、学校にとっても、ご家庭にとっても戸惑いと不安の連続だったと思います。その中で生徒の学

習を支援するために様々な取り組みを行いました。その中の一つである授業動画のオンライン配信について報告いたします。

休校延長時の対応として、各教科の課題プリントを郵送することは決まっていた。それに加えてオンライン授業については3月に吉田校長から検討依頼がICT委員会にありました。ICT委員会では他校での導入事例、どのようなシステムがあるのか等を研究することから始めました。

研究の結果、いつでも視聴することができること、わからないところを見直したり、途中で止めたりすることの利点に着目しYouTubeの限定公開を利用した学習動画配信を採用しました。このときは、郵送した課題プリントの補助という位置付けでの動画を想定していました。

4月上旬に教員に向けての説明会・研修会を持ち、4月13日から「テーマ別、教科別の動画」を不定期に配信しました。さらに5月上旬に休校期間の延長が確定したことを受け、時間割を組んで5月18日～30日に「授業の予習用学習動画」を毎日配信することを新たに決めました。しかし、自由に使用できる端末を持っていない生徒もいると想定されたので、動画は授業の予習用という位置付けとし、動画を見なくても取り組める課題の作成を全教科に依頼しました。

5教科のみに特化する学校が多い中、本校では全教科の動画配信を行ったことが大きな特徴と考えています。どの教科もしっかりと学習してほしいという本校の姿勢の表れです。全教科・全科目の1週間の授業を1日に3～4本、2週間をかけて配信いたしました。

多くの先生が初めての作業となり、普段の授業準備よりも多くの時間を必要としました。すべての教科、学年、教員が作成することを目標とし、お互いに協力、教え合いながら取り組みました。黒板での講義を撮影し動画を編集する先生、パワーポイントで作成したスライドに解説の音声を録音する先生、様々な形の動画が作成されました。教員間の連携、協調性が高いことが本校の強みであり、一丸となって取り組めたことによって授業動画は一つも欠けることなく配信することができました。

生徒のアンケートを読むと概ね好評でしたが、動画の中には「雑音が多くて聴き取りにくい。」「声が小さい。」「携帯で見ると文字が小さくて見えない。」等の指摘があり、今後の課題と考えています。

至らないところもあったと思いますが、生徒・保護者のみなさんにご理解、ご協力いただけたことに感謝しております。6月から授業を再開できたことは、みなさんの協力があったことだと思います。今後、生徒アンケートの結果を参考にしながら、タブレットの導入に向けて有用なコンテンツの研究、双方向の学習活動等の検討を行ってまいります。

2019年度高Ⅲ生の進路状況

進路指導部長 前田 英樹

2020年度センター試験の志願者数は、前年度より19,131人少ない、557,699人であった。

受験者数は減少傾向でなおかつ、3科目以上の受験者は約20,000人も減少しているのにも関わらず、2科目以下はほぼ前年度と同じ数であった。私立の定員厳格化による影響は少しおさまってきたようだが、来年からセンター試験が大学入学共通テストに代わるため安全志向は強く、国公立大や難関私立大での受

験者の減少が目立った。あきらめず強気で第一志望を貫いて頑張った生徒が合格していたようである。

本校では、卒業生219名のうち、4年制大学へ183名(83.6%)、短期大学へ13名(5.9%)各種専門学校へ10名(4.6%)が進学し、就職が1名(0.5%)であった。

2021年度入試は、新型コロナの影響でオープンキャンパスや入試説明会をオンラインにする大学が増え、また面接もオンラインで行う大学もあった。また、入試改革により一般入試で志望理由書の提出を求める大学などもでてきている。しかし、やるべき事に大きな違いはないので、基本をしっかり身につけ、最後まで粘り強く学習する生徒が増えることを望む。

2019年度入試 合格実績

卒業生数:219名

人数は現役・既卒生の合計を示す

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国公立大学計	16	同志社女子大学	13	関西医療大学	1	甲南女子大学	10	朝日大学	1
大阪市立大学	2	京都女子大学	12	京都精華大学	3	京都ノートルダム女子大学	8	第一薬科大学	1
大阪府立大学	1	武庫川女子大学	24	太成学院大学	1	梅花女子大学	4	短期大学計	16
大阪教育大学	6	神戸学院大学	13	大阪電気通信大学	2	神戸女子大学	2	武庫川女子大学短期大学部	9
奈良女子大学	1	摂南大学	6	京都造形芸術大学	3	神戸海星女子学院大学	1	大阪信愛学院短期大学	2
神戸市外国語大学	1	神戸学院大学	6	大阪芸術大学	2	4年制私立大学(近畿圏外)計	35	京都文教短期大学	2
京都市立芸術大学	1	追手門学院大学	4	京都橘大学	16	早稲田大学	4	関西外国語大学短期大学部	1
兵庫県立大学	2	桃山学院大学	7	関西福祉科学大学	3	慶応大学	1	白鳳短期大学	1
釧路公立大学	1	帝塚山学院大学	9	京都外国語大学	1	明治大学	9	大阪芸術大学短期大学部	1
鳥取大学	1	帝塚山大学	12	大阪経済大学	2	青山学院大学	3	専門・各種学校計	10
文科省所管大学校	1	大阪工業大学	9	相愛大学	3	立教大学	5	大阪労災看護専門学校	1
防衛大学校	1	四天王寺大学	5	宝塚大学	1	中央大学	1	大阪済生会野江看護専門学校	2
4年制私立大学(近畿圏)計	299	関西外国語大学	3	天理大学	1	国際基督教大学	1	清恵会医療専門学校	1
関西大学	7	大阪大谷大学	3	大阪歯科大学	1	聖路加国際大学	1	泉佐野泉南医師会看護専門学校	1
関西学院大学	10	大和大学	2	大阪音楽大学	3	明治学院大学	1	大阪外語専門学校	1
同志社大学	8	森ノ宮医療大学	2	大阪行岡医療大学	1	津田塾大学	1	大阪美術専門学校	1
立命館大学	3	大阪保健医療大学	2	神戸国際大学	1	東京女子大学	1	上田女子服飾専門学校	1
京都産業大学	4	大阪総合保育大学	2	神戸芸術工科大学	1	昭和女子大学	1	HAL大阪専門学校	1
近畿大学	24	常磐会学園大学	2	京都造形芸芸大学	1	洗足学園音楽大学	1	バンタンデザイン研究所	1
甲南大学	2	畿央大学	1	大阪樟蔭女子大学	15	岡山理科大学	2	海外計	0
龍谷大学	7	千里金蘭大学	1	神戸松蔭女子学院大学	9	東北学院大学	1	就職	1

クラブ等の成果

2020年度4月期から11月期表彰授与一覧

高校陸上競技部

- 第75回大阪高等学校総合体育大会
陸上競技の部3-4地区予選会8.11
ハンマー投5位 池田 有唯(ⅡF)
円盤投6位 芦田 彩良々(ⅡF)
三段跳5位 井上 心音(ⅠA)
三段跳3位 重本 愛珠(ⅢC)
- 大阪高等学校陸上競技種目別選手権大会8.30
女子三段跳7位(10m06cm) 重本 愛珠(ⅢC)
- 秋季陸上競技大会11.1
女子ハンマー投6位 池田 有唯(ⅡF)

高校体操部

- 令和2年大阪府高等学校体操競技大会8.11
種目別段違い平行棒3位、個人総合8位
眞田結 佳子(ⅢA)
- 第75回大阪高等学校総合体育大会9.5
体操競技の部2部女子団体総合3位
眞田 結佳子(ⅢA) / 山浦 紗葵(ⅠB)
/ 坂上 萌々香(ⅠE)
個人総合9位 眞田 結佳子(ⅢA)
- 大阪高等学校体育連盟新人大会
体操競技の部(11.8)
個人総合第2位 種目別ゆか第3位
段違い平行棒第2位 坂上 萌々香(ⅠE)

高校放送部

- 第44回全国高校総合文化祭
(2020こうち総文)8.20
放送部門アナウンス優秀賞 岡田 羽叶(ⅢG)

高校ダンス部

- 日本高校ダンス選手権大会スーパーカップ
DANCE STADIUM8.17
全国4位

- 大阪私学中学校英語暗唱弁論大会
暗唱の部第3位 仁平 かのん(2a)

美術部

- 第69回大阪私学美術展(11.1)
優秀賞 加藤 琴(3a) 高篠 彩香(ⅢA)
米田 有花(ⅡC) 浦山 裕月(ⅡE)
奨励賞 道嶋 かれん(ⅢA) 藤原 もも(ⅢD)
鳥飼 琴音(ⅡE) 益池 彩乃(ⅡF)
上ノ山 和津子(ⅠA) 笹野 菜里(ⅠC)
高島 愛実(ⅠE) 谷口 湊(1c)

学校団体優秀賞

主な行事

4月

4日 入学式
9日～5月31日 特別休校措置

5月

18日～30日 週に2回程度
登校日を設定

6月

1日 1学期始業の日
身体測定 視力検査
1日～15日 分散登校
16日 通常授業開始
20日 高校オープンスクール
27日 PTA学級集会

7月

11日～17日 1学期期末考査

8月

8日 1学期終業の日
17日 2学期始業の日
24日～25日 実力考査

9月

18日～19日 文化祭(分散実施)
30日～10月3日 2学期中間考査

10月

18日 中学プレテスト
19日～21日 中3British Hills英語合宿
21日 中1・中2・高I校外学習

11月

3日 高校オープンスクール
7日 中学入試説明会
14日 中学プレテスト
18日 宗教講話
20日 収穫感謝礼拝
28日 高校入試説明会
30日～12月4日 2学期期末考査

12月

5日 高校入試説明会
芸術実技講習会
7日～26日 高Ⅲ冬期講座
15日～17日 中1・中2 E-Act
18日 クリスマス礼拝
24日 2学期終業の日

シリーズ
第31回
活躍する
卒業生

俳優・中学演劇部コーチ

小林 恵美子さん(現 高橋映美子) (第101回卒業生)

演劇の窓から出会う

卒業してから不意にプール学院と出会う機会があります。先日出会ったのは、ボイトレの先生との会話の中で。「イタリア語の歌は発声がし易いんですよ」私は高校の音楽のテストで「O'sole mio」を自慢の大声で歌ったことを思い出し、確かに!!と思いました。Viva! プール学院!

プール学院高校演劇部から始めた演劇を通じて、たくさんの人と出会います。「え?プールOGなん?」を合言葉に、距離を縮めた同窓の演劇人もいます。OG同士の“プール学院あるある”で、話題は尽きません。



こんなこともありました。「その時、男役してた?もしかしてベージュのジャケット着てた?」と同僚に言われたのです。私が高校時代に出演した学外公演を、偶然にも観ていたことが卒業後10年以上経って判明しました。

「プール学院演劇部すごいなあって、衣裳まで覚えてるわ!」と言われて、まさかの再会に驚き笑いました。

約10年前から中学演劇部のコーチをさせていただいています。新しいメアリーズホールや清心館の舞台に立つ中学生をうらやましく思いながら、私たちの時と変わらない制服(細かいところは変わっているんですね!、「Everytime Dramatic!」のクラブTシャツが懐かしく、女子だけの演劇部と過ごす時間は、私の中のプール学院を核にしてくれました。コーチの私は至らないところも多く、先生方の今も変わらない献身的な様子を目の当たりにして、襟を正すことも度々です。

新型コロナ流行の影響は、演劇にも例外なく及び、上演はもちろん、練習さえも難しい厳しい状況です。最前線の医療関係者の方々に感謝しつつも、なんだか喪失感を感じて、自分に何ができるのだろう、と不安を感じます。それでも、出会って人とつながること、想いを通い合わせることで、時代や形式は変わったとしても、その豊かさを信じたいです。

ももちの世界「黒いらくだ」より 撮影:松田ミネタカ

中学校・高等学校

「キリスト教と私」

事務職員 中山 浩子

1989年4月、プール学院短期大学英文科40期生として、泉ヶ丘キャンパスの桜並木の坂を履きなれないパンプスとスーツを着て入学式を迎えたあの日から、早30数年の時間が経ちました。



私学の高校に通っていた私は、エスカレーターのごとく、そのまま併設の短期大学へ当然進学できると思い込んでいた高3の秋、突如、天から地へ突き落されたような合否結果を担任の先生から知らされ、そこから私の受験勉強は、始まりました。3月の一般入試で、プール学院短期大学へ合格の切符を手にした時の喜びは、今も忘れられず、受験番号に至っては私にとって救いの番号です。

プール学院短期大学の閉学に対して、当初受け入れるには辛く悲しい思いがありました。しかし、時の流れで育まれたプール学院の精神は、皆の心の中で輝き続けるはずだという思いもあり、今も複雑なままです。

プール学院短期大学では、「キリ教」「神の愛」「アガペー」「聖書」「讃美歌」「礼拝」「アッセンブリー」・・・キリスト教の学校でしか感じることができない貴重な経験体験を致しました。生涯の友となった友人達とすごせた学生生活、卒業後プール学院で事務職員として、現在も働き場を授けていただけたことに感謝しても感謝しきれないです。

私事になりますが、2020年6月23日に最愛の父を肝臓がんで亡くしました。学院では、毎年「逝去者礼拝」が執り行われていて、キリスト教とは、まったく縁のない実家の母へ「逝去者礼拝」のご案内を渡しました。父の死を受け入れきれない母が、『キリスト教では、この世での生涯を終えることを「逝去」といい、「この世での死」は、人生の終わりではなく永遠の命への門出』を読ませていただき、『永遠の命の門出なんやなあ お父さんはずっと、そばで、守って、くれてはんねんなあ』という思いにならせていただきました。人生には、最愛の人との別れや、自分ではどうしようもできないことがあっても、プール学院の校舎トリストラム館の正面の壁に、ギリシャ語で「真理はあなたたちを自由にする」ヨハネによる福音書8章32節が刻まれている聖書の言葉とお、「神さまに守られている」と感じさせてもらえる私にいつの間にか、ならせていただけていました。

これが、プール学院がご縁で運んでくださった私にとっての「キリスト教」です。

短期大学

“The Wise Purpose of God”

秘書科 教授 Rebecca Arthur

Poole Gakuin College belongs to a world-wide network of Anglican colleges and universities called CUAC. Over the years, many of our students have benefited from various programs and workshops organized through this network.



In the spring of 2019, The Reverend Canon James Callaway, the General Secretary of CUAC, came to our campus and met with several of us. After the usual pleasantries, the conversation turned to the closing of Poole Gakuin College. To my surprise, instead of consoling us he reminded us of Ecclesiastes Chapter 3 in the Old Testament.

This chapter begins with “There is a time for everything, and a season for every activity under the heavens.” The next 7 verses include 14 sets of contrasting activities that show how life is full of various seasons. These include opposites such as birth and death, weeping and laughing, and so on. Much has been written about the meaning of these verses. However, the essence is that there is a proper time for all things.

Further along, in verse 11, are the words, “He has made everything beautiful in its time.” Some translations use the words “suitable” or “appropriate” instead of “beautiful”. Regardless, this verse tells us that, in time, God can transform any season.

The Reverend Canon reminded us of these words and pointed out that there was no shame in coming to an end. God is in the “ending” of something just as much as in the “beginning” and, in time, God can make it beautiful. He noted that the most important thing was to do all things to the glory of God, regardless of the season.

I was much encouraged by these words and think of them often. Of course, I am greatly saddened by the closing of Poole. However, these verses remind me that God is here in this season of “ending” and that, in time, through the wise purpose of God, it will be made into something beautiful. I am reminded, too, that even in this difficult season, we are called to do all things to the glory of God. My prayer is that it may be so. Amen.



一年のご報告

一般社団法人POOLE理事長
鈴木 光子 (高73回・小柴)



2020年に入り、日本中、そして世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされ、私たちの生活は大きく変わらざるを得なくなりました。特に4月7日からの緊急事態宣言により、学校は休校に、会社もテレワークに、多くの商店は休業にと街は人通りも途絶え、経験したことのない緊張を強いられました。2021年の年明け13日には2回目の緊急事態宣言が発令され、予断を許さない日々が続いております。今年も昨年に続き状況を見つつ同窓会活動を検討していかなければなりません。

2020年5月の一般社団法人POOLEの社員総会はハガキにより同意を得、成立いたしました。楽しみにしていた午後の同窓生の集いも中止にいたしました。緊急事態宣言は解除されたものの9月の賀寿祝福礼拝はコロナの感染状況をみてやはり中止せざるを得なくなりました。賀寿祝福礼拝につきましては2021年9月11日に開催予定ですので、2020年度と2021年度の2学年合わせてご案内を差し上げます。11月のクラス代表者会、楽しみにしておりました川口基督教会でのクリスマス礼拝も中止となりました。全ての活動が休止のなかであって今後の同窓会の有り様を考える機会ともなりました。

2021年の世の中はどのようになるのか見当が付きませんが、私たちは祈りをもって神さまが指し示してくださる道を歩みたいと思います。コロナ禍であって困難な中に有る方、医療に携わるすべての方に神さまのみ守りがありますように祈ります。

同窓会館での対策～部屋貸し再開～

同窓会館は、新型コロナウイルスの影響によりご利用者の安全を考慮し、2020年3月より部屋貸しを中止しておりましたが、10月から段階を経て再開致しました。安心してご利用いただくために今後も以下の感染予防対策を徹底してまいります。尚、状況により部屋貸しの条件が変更になる場合がございますが、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【実施中の対策】

- ・入館時の検温
- ・手指消毒・除菌等の励行

- ・マスクの着用
- ・人との間隔をあける
- ・1時間置きに10分程の換気



コロナ対策(玄関)



コロナ対策(室内)

※合唱等にご利用ご希望の方は事前にご相談ください。

葡萄の木Vol.3 2020年5月発刊告知

『葡萄の木vol.3』編集委員

2019年プール学院創立140周年を期に、更なる母校の発展と同窓会の充実を願いつつ、前号(vol.2)から今日までの、同窓会のあゆみを記録いたしました。



葡萄の木 中・外イメージ



葡萄の木 中表紙

2020年ミヅパ会総会中止のご報告

プール学院ミヅパ会(短期大学・大学同窓会)
会長 五十嵐 よし子
(高84回・短英26期・佐藤)



プール学院ミヅパ会会員の皆様大変ご無沙汰いたしております。お変わりなくお過ごしでしょうか。さて、「2020年ミヅパ会総会」は新型コロナウイルス感染拡大予防のため開催困難と判断し中止させて頂きました。ご了承ください。

尚、決算書等はミヅパ会ホームページをご覧ください。

会員皆様のご健康を心からお祈りしております。

<http://poole-mizpah.jp/>

礼拝報告

新型コロナウイルス禍、感染予防対策を十分に行ったうえで記念礼拝は執り行われました。



学徒勤労動員殉難者記念礼拝

2020年6月8日(月)の様子

※2021年は6月7日11:00～の予定



室戸台風殉難者記念礼拝

2020年9月19日(土)の様子

※2021年は9月21日11:00～の予定

※事情により日時・場所等変更の可能性があります。

短期大学の閉学に伴う重要なお知らせ —学院の支援内容、窓口変更等について—

先般からお知らせのとおり、プール学院短期大学では、2020年度入学生からの学生募集を停止しました。今後、現2年次生が卒業する2021年3月末日をもって閉学予定です。

短期大学の閉学後も、本学院では、卒業生の皆様への支援や証明書発行等を継続します。その内容とあわせて、窓口の変更等を以下のとおり、お知らせいたします。

1. 短期大学に関する窓口変更

短期大学の閉学に伴い、2021年4月以降、窓口は大阪市生野区にあるプール学院法人本部に変更いたします。また、事務所移転作業等のため、以下の期間、事務取扱を停止させていただきますので、お知らせいたします。

時期	窓口
～2021年 3月26日(金)	プール学院短期大学 堺市南区槇塚台4-5-1 TEL072-292-7201
2021年3月27日(土) ～2021年4月4日(日)	事務取扱停止期間
2021年 4月5日(月)～	学校法人プール学院 法人本部 大阪市生野区勝山北1-19-31 TEL06-6741-7005

2. 証明書発行

2021年4月以降は、プール学院法人本部にて発行いたします。詳細につきましては、2021年3月下旬頃、ホームページに掲載予定です。なお、事務取扱停止期間(2021年3月27日～4月4日)は、証明書を発行できませんので、早目にお申込ください。

3. 卒業後の就職支援

2022年3月末までの期間、キャリアサポートセンターで実施している就職支援をプール学院法人本部にて継続いたします。閉学後、企業や幼稚園、保育所等からの求人票は届きませんが、各種の相談や職業紹介機関の案内等を実施します。

4. その他の相談や問合せ

その他、短期大学に関するご相談やご質問等がございましたら、プール学院法人本部までお問合せください。

5. 短期大学記念室の開設

2021年秋頃に、短期大学に関する資料、出版物、記念品等を展示する「(仮称)プール学院短期大学記念室」を大阪市生野区の法人本部及び中学校・高等学校の敷地内に設置予定です。施設概要や利用方法等につきましては、次回以降の学院報にてお知らせいたします。

■ 学校法人役員・評議員

〈就任〉-2020.4.1付-
評議員 池田周弘
澤村厚司
西尾宣明
〈退任〉-2020.3.31付-
理事・評議員 佐藤公一
評議員 島田恒
鶴坂貴恵

■ 教職員

〈昇格・登用〉-2020.4.1付-
* 短期大学
教 授 和田慎二郎
* 中学校・高等学校
専任教諭 山崎凌
〈新任〉-2020.4.1付-
任期制専任教諭 川畑公美子
曾我彩加
田邊裕美
富奥晃史
〈新任〉-2020.8.17付-
常勤講師 石原愛花
〈変更〉-2020.10.1付-
管理職嘱託 上杉敏行

〈退職〉-2020.3.31付-
* 短期大学
専任教員 大嶋耕一 寺田恭子
特任教員 大土恵子 寅屋壽廣 原田昌幸
南亜紀子 渡邊のゆり
常勤管理職嘱託 赤土壽典
* 中学校・高等学校
専任教諭 松倉紀之 米田誠
任期制専任教諭 岡本真司 川崎聖高 勢頭美里
常勤職員 内海伸晃
〈退職〉-2020.5.31付-
* 中学校・高等学校
任期制専任職員 高田陽淑